

犬の気管虚脱に対する気管内ステント留置—会場での討論

Q1: 人では約 1 年程度でステント内に肉芽形成しやすいので、数年も肉芽形成しないというのは驚いている。演者が使用したステントは、**covered** であったか確認させてほしい。また、演者のシリーズではどれくらいの比率の症例でステント内に肉芽が形成されたのか教えてほしい。

A1: 使用した Nitinol ステントは **non-covered** です。犬の気管虚脱は良性疾患なので肉芽形成しにくいかもしれないが、毎日ネブライゼーションを自宅で実施し気道衛生管理を行っているのも肉芽形成しにくい要因かもしれないと考えています。現在までの演者の経験では、13 例中 2 例で大きな肉芽形成がみられました。他にも少量の肉芽形成がみられているが有意と思われるものはなく、実際定期的に気管支鏡で観察しても増大がみられませんでした。

Q2: この犬の気管が狭窄する病態というのは、他の末梢気管支でも狭窄が生じているような病態なのか？

A2: 今回対象とした気管虚脱は気管の中央部のみが扁平狭窄化し、このタイプは末梢の気管支には狭窄はみられません。別のタイプの気管虚脱が犬の慢性気管支炎でみられ、それは呼気時に胸腔内の気管支が虚脱します。

Q3: この疾患は小型犬にのみ起こるということだが、やはり遺伝的な要因が考えられるのか？

A3: 本疾患は、ヨークシャーテリア、ポメラニアン、チワワに特に好発し、大型犬では起きません。また、猫でも生じません。したがって、これら犬種に限った問題と考えられます。他の犬種でもみられないことはありませんが、少ないです。

Q4: このような気管内にステントを留置するような小型犬の気管の全長はどれくらいなのか？ またそれに対しどれくらいの長さのステントを留置するのか？

A4: 気管の長さは個体差があり一律ではありませんが、喉頭直下から気管分岐部まで 15cm 程度だと思います。ステントの長さも症例によりますが長いもので 7-8cm 程度です。